

# トカラ列島悪石島の植物採集記録

森田康夫\*・丸野勝敏\*

The report of the plant collection on Akuseki-jima in the Tokara Islands, Kagoshima Prefecture  
Yasuo MORITA \*・Katsutoshi MARUNO \*

## はじめに

悪石島は、トカラ列島の中南部、北緯29度27分、東経129度39分に位置し、長径約4 km、短径約2 km、面積約7.03平方kmの火山島である。島は、南北にやや長く中央がくびれた楕円形をし、最高点は北西部にある標高584mの御岳で、そのほか中央部に中岳（標高460m）、東南部にピロウ山（標高336m）と若内岳（標高363m）があり、平地は少ない。

島の人口は70人ほどであるが、その多くが島の南部の上村集落に集中し、他には西海岸の港湾施設があるやすら浜にわずかに数軒がある程度である。主要な産業は、農林水産業と観光業で、島の東部や南部に牧場がひろがり、牛の放牧がおこなわれている。

悪石島の植物相については、内藤(1936)、初島(1974)、迫(1984)、平田(1995)、志内(1995)等の報告があるが、これらのうち初島は、悪石島の高等植物は367種と報告し、迫は378種をあげ、平田は453種を報告している。悪石島は面積は小さいが、宝島との間にある動物分布境界線の渡瀬線のすぐ北に位置するため、北方系や南方系の植物が混在し、島の大きさに比べて植物種は多い。また、新たな帰化植物の定着などで、さらに増加しているものと思われる。

この悪石島において、2002年(平成14年)の8月8日から10日の3日間、当博物館の資料収集調査活動の一環で植物資料の採集を実施した。わずか3日間の活動であったため、島の一部でしか行動できず、収集した植物資料もわずかなものであるが、いくつかの知見も得たので報告する。

なお、疑問種等の同定で、鹿児島大学名誉教授の初島住彦氏にお世話になった。この場を借りて厚く感謝申し上げる。

## 1 調査域の概要と植生

今回の調査では、わずか3日間という短い期間を

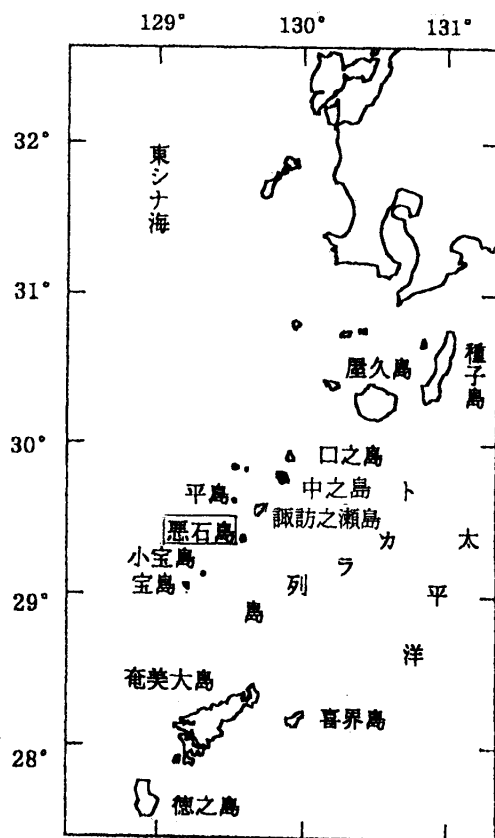


図1 悪石島位置図

有効に利用するため、島の多様な植物相が見られる場所を重点的に調査した。(図2参照)

悪石島の植生については、これまでの報告によると、島の大部分を占めるリュウキュウチク群落、集落や林道周辺の路傍植物群落、急峻な断崖をなす海岸断崖群落、そしてビロウと照葉樹が混生する群落等が知られている。以下に、それぞれの群落を代表するような場所として選定した調査域の植生概要を述べる。

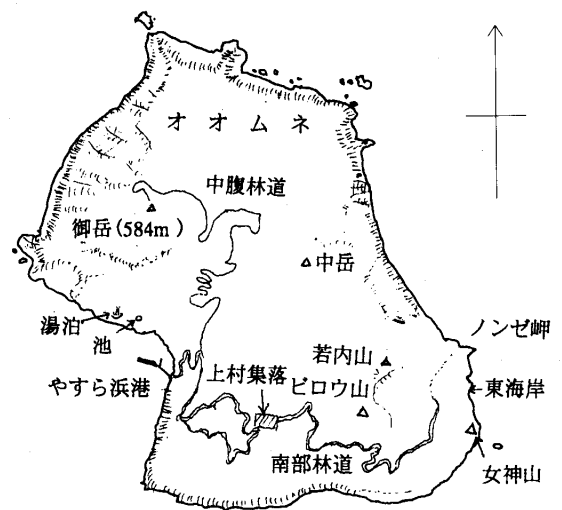


図2 悪石島の植物採集域

### ① 御岳山頂から林道沿い

最高峰の御岳をはじめとして、島の大部分は高さ3~4mほどのリュウキュウチクに被われている。昔から竹林での焼き畑農業が行われてきたトカラ列島であるが、その中でもこの島は最も遅くまで焼き畑が行われ、その影響が植生にも色濃く反映していると思われる。

リュウキュウチク林は外観上は単純な植生に見えるが、林内や林道沿いには、タブノキやヒサカキ、オオムラサキシキブ、アラゲサクラツツジ等の低木や、アリサンミズ、ヘツカリンドウ、サツマイナモリ等の草本など植物の種類は多い。

### ② 上村集落から東海岸までの林道沿いの路傍植物群落

道沿いには、スタシイやアカメガシワ、カラスザンショウなどの高木がまばらに生え、ウラジロフジウツギやトカラアジサイ等の低木、ハチジョウイノコズチやオトギリソウ、ホンバアダン等の草本類が多く見られる。また、タチスズメノヒエ等の新たな帰化も確認した。なお、集落近くの道沿いでヒカゲヘゴを採集した。これまでヘゴやチャボヘゴの記録はあるがヒカゲヘゴは初めてである。

### ③ 海岸植生

島の周囲はほとんどが断崖絶壁で崩落も多く人は容易に近づけない。しかし、東南部の女神山とノンゼ岬の間には岩礫海岸が発達し、後背の安定地にはわずかな海浜植生が見られる。ここには、背の低いリュウキュウチクが海岸近くまで迫り、ニオウヤブマオやオイランアザミ等の植物が混在し、やがてハマボスやソナレムグラ、イソヤマテンツキ等がまばらに生える貧弱な海岸岩上植生へと替わっていく。

また、西側のやすらはま港北側には、ミナミシロイシガメの住む小さな池があり、カンガレイやフトイ等の水生植物群落が発達している。さらに近くの海岸断崖上で、オキナワハイネズの群生も確認された。

### ④ 女神山および若内山東斜面

今回の調査で最も興味深い資料が得られたのがこの地域である。女神山は島の南東端に突出した標高100mほどの急峻な山で、外観上は海岸性の風衝低木林となっている。西側の低

地はほぼ純粋なビロウ林であるが、斜面や山頂域は高さ5～6 mほどの照葉樹林を呈し、リュウキュウチクの侵入は認められない。木本類はホルトノキやシャリンバイ、トベラ、モチノキが多く、ヒゼンマユミ、シバニッケイとヤブニッケイの雑種であるシバヤブニッケイ、北限種のリュウキュウクロウメモドキもここで採集した。

また、女神山に向かい合う若内山の東斜面も下部の優占種はビロウであるが、上るにつれて高さ10mほどの照葉樹林となり、南方系のナガミボチョウジやハウビカンジュ、従来宝島が北限とされてきたクスノハガシワなどの植物を収集した。今回時間の都合でこの地域の調査は十分できなかつたが、ここはリュウキュウチクの影響をほとんど受けておらず、悪石島で最も多様な植物が観察できる地域ではないかと思われる。

## 2 採集した植物種についての考察

以下の表は、今回の調査で採集した植物種の一覧表である。合計60科141種の高等植物を採集し、標本にして収蔵した。短期間で狭い面積での調査であるため、採集種数はそれほど多くないが、初記録種や分布上注目すべき種など、若干の知見を得たので以下に述べる。なお、疑問種などのほか、初記録種や分布上注目すべき種については、いずれも初島住彦氏に同定を依頼した結果に基づいている。

また、今回の調査で採集した植物資料は、すべて標本化して当博物館に収蔵してある。ただし、確認しただけの普通種等については、紙面の都合もあり記載は省略した。

### (1) 初記録種について

今回の調査で初めて悪石島で記録された種は、シダ植物が2科2種。被子植物で9科12種の合計11科14種であった。

#### ① ヒカゲヘゴ *Cyathea lepifera* (ヘゴ科)

島の南部、東海岸に通じる道路沿いで採集した。まだ小さな幼樹であったが、人為的に植栽されるような場所ではなく、何らかの理由で渡来したか、在来のものであった可能性が高い。ヒカゲヘゴは、元来奄美大島以南に分布する木生シダの一種で、屋久島にも少数の個体が知られているが、これは植栽の可能性もある。今回の調査により、悪石島がトカラ列島唯一の自生地であることを考えると自然分布の北限となる可能性もある。

#### ② ニセヒロハノコギリシダ *Diplazium dilatatum* (イワデンド科)

紀伊半島、屋久島、徳之島、沖縄本島に記録があるヘラシダ属の仲間である。基本種のヒロハノコギリシダも分布しており、これによく似るが、ヒロハノコギリシダが基本的に2回羽状複葉であるのに対し、ニセヒロハノコギリシダは1回羽状複葉であり、葉柄の鱗片は狭披針形のものだけである。御岳山腹の林縁で採集した。

#### ③ カカツガユ *Maclura cochinchinensis* var. *gerontogea* (クワ科)

表 悪石島採集植物リスト

シダ植物 *Pteridophyta*

科名	和名	学名	備考
ヒカゲノカズラ科	ミズスギ	<i>Lycopodium cernuum</i>	
イワヒバ科	オニクラマゴケ	<i>Selaginella doederleinii</i>	
	ヒメムカデクラマゴケ	<i>Selaginella lutchuensis</i>	
リュウビンタイ科	リュウビンタイ	<i>Angiopteris lygodiifolia</i>	
ヘゴ科	ヒカゲヘゴ	<i>Cyathea lepifera</i>	初記録(1)－①
	チャボヘゴ	<i>Cyathea spinulosa</i>	
ホングウシダ科	ハマホラシノブ	<i>Sphenomeris biflora</i>	
ツルシダ科	ホウビカンジュ	<i>Nephrolepis biserrata</i>	北限種(2)－①
イノモトソウ科	ハチジョウシダ	<i>Pteris fauriei</i>	
	リュウキュウイノモトソウ	<i>Pteris ryukyuensis</i>	
チャセンシダ科	オオタニワタリ	<i>Asplenium antiquum</i>	
	シマオオタニワタリ	<i>Asplenium nidus</i>	
ツルキジノオ科	ヘツカシダ	<i>Bolbitis subcordata</i>	
オシダ科	コバノカナワラビ	<i>Arachniodes sporadosora</i>	
	ナンカイイタチシダ	<i>Dryopteris varia</i>	
	ナガバノイタチシダ	<i>Dryopteris sparsa</i>	
	リュウキュウシダ	<i>Dryopteris hasseltii</i>	
	オニヤブソテツ	<i>Cyrtomium falcatum</i>	
	ケホシダ	<i>Thelypteris parasitica</i>	
	オリズルシダ	<i>Polystichum lepidocaulon</i>	
	ナチシケシダ	<i>Deparia petersenii</i>	
ヒメシダ科	クシノハシダ	<i>Thelypteris subpubescens</i>	トカラでは悪石のみ
イワデンド科	コクモウクジャク	<i>Diplazium virescens</i>	
	ヒロハノコギリシダ	<i>Diplazium dilatatum</i>	
	ニセヒロハノコギリシダ	<i>Diplazium dilatatum</i> var. <i>heterolepis</i>	初記録(1)－②
ウラボシ科	ヤリノホクリハラン	<i>Colysis wrightii</i>	
	オオイワヒトデ	<i>Colysis pothifolia</i>	

[計 13科 27種]

種子植物 *Spermatophyta*

裸子植物 *Gymnospermae*

科名	和名	学名	備考
マキ科	イヌマキ	<i>Podocarpus macrophyllus</i>	
ヒノキ科	オキナワハイネズ	<i>Juniperus taxifolia</i> var. <i>lutchuensis</i>	

[計2科2種]

被子植物 *Angiospermae* [双子葉類]

科名	和名	学名	備考
ニレ科	ウラジロエノキ	<i>Trema orientalis</i>	
	クワノハエノキ	<i>Celtis boninensis</i>	
クワ科	カカツガユ	<i>Maclura cochinchinensis</i> var. <i>gerontogea</i>	初記録(1)－③
	ハマイヌビワ	<i>Ficus virgata</i>	
イラクサ科	ハドノキ	<i>Oreocnide pedunculata</i>	
	アリサンミズ	<i>Pilea aquarum</i>	
	ヤンバルツルマオ	<i>Pouzolzia zeylanica</i>	
	ケナガバヤブマオ	<i>Boehmeria hirtella</i>	初記録(1)－④
	オオサンショウソウ	<i>Pellionia radicans</i>	
ヤドリギ科	オオバヤドリギ	<i>Scurrula yadoriki</i>	
タデ科	イヌタデ	<i>Persicaria longiseta</i>	
キンポウゲ科	キツネノボタン	<i>Ranunculu ssilerifolius</i>	
	コバノボタンヅル	<i>Clematis pierotii</i>	
コショウ科	サダソウ	<i>Peperomia japonica</i>	
クスノキ科	マルバニッケイ	<i>Cinnamomum daphnoides</i>	
	シバニッケイ	<i>Cinnamomum doederleinii</i>	初記録(1)－⑤
	シバヤブニッケイ (シバニッケイとヤブニッケイの雑種)	<i>C. × takushii</i>	初記録(1)－⑥
	アカハダクスノキ	<i>Beilschmiedia erythrophloia</i>	北限種(2)－②
オトギリソウ科	オトギリソウ	<i>Hypericum erectum</i>	
ベンケイソウ科	タイトゴメ	<i>Sedum oryzifolium</i>	
ユキノシタ科	トカラアジサイ	<i>Hydrangea kawagoeana</i>	

科名	和名	学名	備考
バラ科	フユイチゴ	<i>Rubus buergeri</i>	南限種(2)－⑤
マメ科	シマエンジュ	<i>Maackia tashiroi</i>	
	ハカマカズラ	<i>Bauhinia japonica</i>	
	ヤマハギ	<i>Lespedeza bicolor</i>	初記録(1)－⑦
	クズ	<i>Pueraria lobata</i>	
トウダイグサ科	カキバカンコノキ	<i>Glochidion zeylanicum</i>	
	クスノハガシワ	<i>Mallotus philippensis</i> (北限種)	初記録(1)－⑧
	ツゲモドキ	<i>Drypetes matsumurae</i>	北限種(2)－③
ニシキギ科	テリハツルウメモドキ	<i>Celastrus punctatus</i>	
	コクテンギ	<i>Euonymus tanakae</i>	
	ヒゼンマユミ	<i>Euonymus chibae</i>	その他(2)－⑧
	マサキ	<i>Euonymus japonicus</i>	
	モクレイシ	<i>Microtropis japonica</i>	
クロウメモドキ科	リュウキュウクロウメモドキ	<i>Rhamnus liukiensis</i>	北限種(2)－④
ブドウ科	テリハノブドウ	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> var. <i>glabrifolia</i>	
アオイ科	ハイキンゴジカ	<i>Sida rhombifolia</i> ssp. <i>insularis</i>	
スミレ科	タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i>	
ジンチョウゲ科	コショウノキ	<i>Daphne kiusiana</i>	
グミ科	タイワンアキグミ	<i>Elaeagnus thunbergii</i>	
	ツルグミ	<i>Elaeagnus glabra</i>	
アカバナ科	キダチキンバイ	<i>Ludwigia octovalvis</i>	
ツツジ科	アラゲサクラツツジ	<i>Rhododendron tashiroi</i> var. <i>lasiophyllum</i>	南限種(2)－⑥
	マルバサツキ	<i>Rhododendron eriocarpum</i>	
ウリ科	ケカラスウリ	<i>Trichosanthes rostrata</i>	
サクラソウ科	ハマボッサ	<i>Lysimachia mauritiana</i>	
	モロコシソウ	<i>Lysimachia sikokiana</i>	
ヤブコウジ科	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>	
	シマイズセンリョウ	<i>Maesa tenera</i>	
エゴノキ科	エゴノキ(ケエゴノキ)	<i>Styrax japonica</i>	

科名	和名	学名	備考
ガガイモ科	ソメモノカズラ	<i>Marsdenia tinctoria</i> var. <i>tomentosa</i>	
	ツルモウリンカ	<i>Tylophora tanakae</i>	
アカネ科	シラタマカズラ	<i>Psychotria serpens</i>	
	ナガミボチョウジ	<i>Psychotria manillensis</i>	
	ソナレムグラ	<i>Hedyotis biflora</i> var. <i>parvifolia</i>	
	ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i>	
	サツマイナモリ	<i>Ophiorrhiza japonica</i>	
ムラサキ科	チシャノキ	<i>Ehretia ovalifolia</i>	
クマツヅラ科	オオムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i> var. <i>luxurians</i>	
	ショウロウクサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i> var. <i>esculentum</i>	
フジウツギ科	ウラジロフジウツギ	<i>Buddleja curviflora</i>	
シソ科	コバノタツナミ	<i>Scutellaria indica</i> var. <i>parvifolia</i>	
	ヤンバルツルハッカ	<i>Leucas mollissima</i> var. <i>chinensis</i>	
キツネノマゴ科	アリモリソウ	<i>Codonacanthus pauciflorus</i>	
	キツネノマゴ	<i>Justicia procumbens</i>	
イワタバコ科	タマザキヤマビワソウ	<i>Rhynchocheum discolor</i> var. <i>austrokiushiuense</i>	
ハマウツボ科	ナンバンギセル	<i>Aeginetia indica</i>	
スイカズラ科	ソクズ	<i>Sambucus chinensis</i>	
キキョウ科	ヒナギキョウ	<i>Wahlenbergia marginata</i>	
キク科	サジガンクビソウ	<i>Carpesium glossophyllum</i>	
	オイランアザミ	<i>Cirsium spinosum</i>	その他(2)―⑨
	シロノセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>	
	ウスベニニガナ	<i>Emilia sonchifolia</i>	
	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	
	オオキバナムカシヨモギ	<i>Blumea conspicua</i>	
	ツクシメナモミ	<i>Siegesbeckia orientalis</i>	
	タカサブロウ	<i>Eclipta prostrata</i>	
	ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>	
	ヤエヤマコウゾリナ	<i>Picris</i> 属 ( <i>Blumea lacera</i> )	
	ヤマヒヨドリ	<i>Eupatorium variable</i>	

[計39科80種]

## [単子葉類]

科名	和名	学名	備考
ユリ科	ノシラン	<i>Ophiopogon jaburan</i>	
	カラスギバサンキライ	<i>Heterosmilax japonica</i>	
ヤマノイモ科	オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>	初記録(1)―⑨
ツユクサ科	シマイボクサ	<i>Murdannia loriformis</i>	
	ホウライツユクサ	<i>Commelina auriculata</i>	
	シマツユクサ	<i>Commelina diffusa</i>	
	コヤブミョウガ	<i>pollia japonica var. minor</i>	
イネ科	シマスズメノヒエ	<i>Paspalum dilatatum</i>	
	タチスズメノヒエ	<i>Paspalum urvillei</i>	初記録(1)―⑩
	ヤマカモジグサ	<i>Brachypodium sylvaticum</i>	南限種(2)―⑦
	イヌビエ	<i>Echinochloa crus-galli var. caudata</i>	
	ダイトンチヂミザサ	<i>Oplismenus compositus var. intermedius</i>	
	コウライシバ	<i>Zoysia tenuifolia</i>	
	コオニシバ	<i>Zoysia macrostachya var. sinica</i>	初記録(1)―⑪
	チゴザサ	<i>Isachne globosa</i>	初記録(1)―⑫
	ハイヌメリ	<i>Sacciolepis indica var. oryzetorum</i>	
カヤツリグサ科	コゴメスゲ	<i>Carex brunnea</i>	
	ミズハナビ	<i>Cyperus tenuispica</i>	
	アイダクグ	<i>Cyperus brevifolius</i>	
	イガガヤツリ	<i>Cyperus polystachyos</i>	
	メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>	
	シラスゲ	<i>Cyperus doniana</i>	
	シチトウ(リュウキュウイ)	<i>Cyperus monophyllus</i>	
	ヒトモトススキ	<i>Cladium chinense</i>	初記録(1)―⑬
	イヌクログワイ	<i>Eleocharis dulcis</i>	
	オオシンジュガヤ	<i>Scleria terrestris</i>	
	テンツキ	<i>Fimbristylis dichotoma</i>	
	イソヤマテンツキ	<i>Fimbristylis ferruginea</i>	
	シオカゼテンツキ	<i>Fimbristylis cymosa</i>	
	フトイ	<i>Scirpus tabernaemontani</i>	
	カンガレイ	<i>Scirpus triangulatus</i>	
ラン科	オナガエビネ	<i>Calanthe masuca</i>	初記録(1)―⑭

[計6科32種]

総計60科141種



山口県から四国南部，九州，琉球に分布するハリグワ属の常緑の低木で，トカラ列島ではこれまで中之島のみで記録があった植物である。東海岸近くの道沿いで採集した。

④ ケナガバヤブマオ *Boehmeria hirtella* (イラクサ科)

本州から琉球に分布するカラムシ属のナガバヤブマオの毛の多い種である。県内では本土と屋久島，奄美大島で記録があり，トカラ列島ではこれまで諏訪之瀬島だけで記録されていた。御岳中腹の林道沿いで採集した。

⑤ シバニッケイ *Cinnamomu mdoederleinii* (クスノキ科)

主に琉球に分布するニッケイ属の常緑小高木で，本県ではこれまで奄美大島と徳之島だけに知られていた植物である。トカラ列島では初記録となり，北限ともなる。やすら浜港の北側，噴気口の近くで採集した。

⑥ シバヤブニッケイ *C. × takushii* (クスノキ科)

シバニッケイとヤブニッケイの雑種で，これまで琉球でしか記録のない植物で本県では初の記録になる。両者の母樹とも自生しているので，これらの中で雑種ができたものであろう。葉は中間的な大きさである。女神山で採集した。

⑦ ヤマハギ *Lespedeza bicolor* (マメ科)

北海道から九州に広く分布する半低木で，県内では本土で広く見られる植物である。トカラ列島では近年口之島で確認されており，次第に分布を広げていると思われる。御岳中腹の林道沿いで採集した。

⑧ クスノハガシワ *Mallotus philippensis* (トウダイグサ科)

奄美諸島や琉球に自生する常緑の小高木で，これまでトカラ列島の宝島が北限とされてきた植物である。今回の調査により北限が北上したことになり興味深い。若内山の東斜面で採集した。

⑨ オニドコロ *Dioscorea tokoro* (ヤマノイモ科)

全国の山野に普通に見られるつる植物である。ニガカシュウ (マルバドコロ) に似るので，これまで誤認されていた可能性がある。若内山東斜面の林縁で採集した。

⑩ タチスズメノヒエ *Paspalum urvillei* (イネ科)

南アメリカ原産の帰化植物で，県内でも各地に帰化している。トカラ列島では近年口之島，中之島，諏訪之瀬島，宝島で帰化が確認され，今回の調査で悪石島での帰化も確認されたことになる。御岳中腹の林道沿いで採集した。

⑪ コオニシバ *Zoysia macrostachya var. sinica* (イネ科)

小穂がやや小さいオニシバの変種で，琉球，奄美諸島，種子島等に帰化植物として侵入してきた。トカラ列島では宝島と小宝島で記録があり，悪石島では初記録となる。今後分布がさらに拡大していくと思われる。東海岸で採集した。

⑫ チゴザサ *Isachne globosa* (イネ科)

東～東南アジアの湿地や水辺に広く分布する小型の多年草で，トカラ列島では口之島，中之島，宝島で記録がある。東海岸の湿地で採集した。

⑬ ヒトモトススキ *Cladium chinense* (カヤツリグサ科)

関東地方以西から琉球の主に海岸近くに生える多年草。トカラ列島では中之島と宝島で記録がある。東海岸の牧草地で採集した。

⑭ オナガエビネ *Calanthe masuca* (ラン科)

本県の甌島以南の奄美、琉球に分布するエビネ属の多年草で、常緑樹林下に生える。同属のツルランに似るが、ツルランほど下側の唇弁は長くなく、花弁の紫色が濃い。さらに根の太さがツルランが5mmほどあるのに対して、2mmほどと細くなっているなどの特徴がある。御岳中腹のリュウキュウチク林下や林縁で多数の自生を確認し、一部を採集して標本とした。

これまで悪石島ではツルランの記載しかなく、オナガエビネの記録はない。両者の葉の形態は酷似しているため、花が無い時期は混同されツルランとされてきたものであろう。ツルランには幾つかの変種や品種が知られ、オナガエビネとの間の雑種(リュウキュウエビネ)も分布している。悪石島でも中間的な形態の個体も見かけているので、この種については今後、形態と分布についての再調査が必要である。

(2) 分布上注目すべき種

<北限種>

① ホウビカンジュ *Nephrolepis biserrata* (ツルシダ科)

山林内や岩上、樹幹に着生する常緑のシダ植物で、奄美諸島や琉球に産し、悪石島が分布の北限である。若内山の東斜面で採集した。

② アカハダクスノキ *Beilschmiedia erythrophloia* (クスノキ科)

奄美諸島以南の琉球や台湾に分布する常緑高木で、トカラ列島では悪石島だけに分布し、北限になる。若内山の東斜面で採集した。

③ ツゲモドキ *Drypetes matsumurae* (トウダイグサ科)

奄美諸島や琉球に自生する常緑の小高木で、海岸林に多い。屋久島の尾之間にもあるが、植栽されたものと考えられている。女神山で採集した。

④ リュウキュウクロウメモドキ *Rhamnus liukuensis* (クロウメモドキ科)

悪石島以南の奄美、琉球に生育する落葉性の小高木。女神山で採集した。

<南限種>

⑤ フユイチゴ *Rubus buerger* (バラ科)

関東以西に分布する常緑のつる性低木で、悪石島が南限である。やすら浜近くの池周辺で採集した。なお、奄美には近縁のアマミフユイチゴが生育している。

⑥ アラゲサクラツツジ *Rhododendron tashiroi* var. *lasiophyllum* (ツツジ科)

サクラツツジの変種で葉の裏面に毛が多い。薩摩半島南部と黒島、口之永良部島、トカラ列島の各島に産し、悪石島が南限になる。基本種のサクラツツジは、大隅半島や種子島、屋久島、それに奄美大島、徳之島に分布する。

⑦ ヤマカモジグサ *Brachypodium sylvaticum* (イネ科)

旧世界の温帯に広く分布する多年草で、疎林下の岩上や乾いた斜面に生える。従来臥蛇島が南限とされてきたが、1991年に田川等の報告により、悪石島が南限とされた植物である。御岳山頂近くの林道で採集した。

#### 〈その他〉

#### ⑧ ヒゼンマユミ *Euonymus chibae* (ニシキギ科)

暖帯から亜熱帯の海岸近くの林に生える常緑の高木で、国内では、山口県蓋井島や徳島県、九州の大分、宮崎、鹿児島各県と琉球に自生地がある。本県では、甌島、宇治群島の向島、薩摩・大隅両半島の先端付近と悪石島だけに記録があり、環境省レッドデータブックの絶滅危惧 I B 類に指定された貴重種である。女神山で採集した。

#### ⑨ オイランアザミ *Cirsium spinosum* (キク科)

十島村史の植物目録では、悪石島のアザミはハマアザミとされ、分布の南限となっているが、今回の調査で観察した海岸のアザミはすべてオイランアザミであった。迫、立久井の報告でもオイランアザミとなっており、今後も調査を継続し、確認する必要がある。

#### おわりに

温帯と亜熱帯の移行帯といわれるトカラ列島の中南部にある悪石島で、3日間にわたる植物資料の採集を行った結果を報告した。短期間で、島の一部の地域でしか採集できなかったが、60科141種の高等植物を採集し、収蔵資料として標本化することができた。これらの中には、14種の初記録種や、北限種、南限種など分布上注目すべき植物も含まれ、新たな知見を得ることができた。これまで、悪石島はリュウキュウチクの被覆率が高く、植生は比較的単純ではないかと予想していたが、東南部の女神山や若内山を中心に南方系の多様な植物が生育していることが判明した。今後時間をかけて調査を行えば、さらに多くの知見を得ることができると思われる。

#### 引用・参考文献

- 内藤 喬, 1936, 硫黄島, 中之島および悪石島植物方名集. 鹿児島高等農林学校交友会報, 27, 16-23.
- 迫 静男, 1984, 悪石島の植物. 鹿児島大学農学部演習林報告, 12, 79-117.
- 立久井昭雄, 1993, トカラ列島悪石島の植物. 鹿児島県立博物館研究報告, 12, 1-13.
- 平田 浩, 1995, 十島村史, 56-146. 十島. 鹿児島.
- 志内利明, 1995, 修士論文トカラ列島の植物相. 鹿児島大学理学研究科系統分類学講座.
- 初島住彦, 1975, トカラ列島の植物相. 鹿児島の植物, 3, 1-42.
- 初島住彦, 1991, 北琉球の植物, 41-45, 朝日印刷書籍出版, 鹿児島.
- 初島住彦, 1986, 改訂鹿児島県の植物目録, 1-290, 鹿児島.
- 佐竹義輔他・編, 1981, 日本の野生植物草本 I ~ III. 平凡社, 東京.
- 佐竹義輔他・編, 1989, 日本の野生植物木本 I ~ II. 平凡社, 東京.

悪石島の景観と植物



悪石島全景



女神山



御岳方面 (一面のリュウキュウチク林)



湯泊近くの池 (カンガレイ・フトイ群落)



東海岸近くのピロウ林



オイランアザミ



オナガエビネ